

豊かな地に

災害から地域を守り、豊かな地にするために人々は努力してきました。私たちの暮らしは、先人が積み上げてきた歴史の上に成り立っています。今回は、香川県観音寺市の豊稔池と愛媛県四国中央市の銅山川疎水をご紹介します。

■豊稔池（香川県観音寺市）

大野原町（現観音寺市）では、明治27年（1894）、28年に引き続き、大正9年（1920）、13年にも大干ばつに見舞われ、新池築造の気運が盛り上がりました。大正13年に耕地整理組合の加地茂治郎らの働きかけにより、田野々新池工事は県営事業として実施されることになりましたが、工事はすべて組合が行い、築堤材料の石は地元で採掘し、セメントや砂は海岸から牛車で運び、農民自ら足場を組みました。4年の歳月と延べ15万人の労力をかけて新池（豊稔池）は昭和5年（1930）に完成しました。豊稔池碑の碑文の両側には鳥と稲麦が、台座には野菜と果物が彫刻され、五穀豊穰を願う人々の思いが表現されています。〈参考資料：新修大野原町誌編さん委員会編「新修大野原町誌」（2005年）など〉



■銅山川疎水（愛媛県四国中央市）

安政2年（1855）に宇摩地方が大干ばつに見舞われた際、三島などの庄屋が連名で法皇山脈をくり抜いて銅山川から水を引入れることを代官所に嘆願したことが、銅山川疎水の始まりです。その後も銅山川疎水の計画はありましたが、莫大な資金や利害調整などが課題となり実現しませんでした。ようやく昭和11年に愛媛県と徳島県の間で分水協定が成立し、疎水工事が開始されましたが、戦争により中止を余儀なくされました。戦後、洪水調節、発電、かんがい用水の供給を目的とする柳瀬ダムが建設されることになり、昭和25年（1950）に銅山川からの通水が実現しました。さらに新宮ダム、富郷ダムの建設により銅山川からの水の安定的な供給が図られ、日本一の紙のまち四国中央市の発展を支えています。戸川公園と三島公園に功労者の頌徳碑が、柳瀬ダムには殉職者の慰霊碑があります。〈参考資料：四国中央市教育委員会編「四国中央市のくらし第二版」（2006年）など〉

